



諸遊 壕司 議員

検証「4年間の森田町政」

町長

さまざまなことに取り組んだ

【諸遊】大山恵みの里公社は、平成23年度590万円の黒字決算であるが、町などから6600万円の補助金が出ている。黒字ではない。また、雇用面では、正職員8人のうち6人が町外在住者だが。

【町長】2000万円の売り上げ増の結果、黒字化した。

町内の住民を採用すべきだが、住民の応募が少なかった。

【諸遊】農産加工所は、当初の目的と違うのではないか。

【町長】1年を通してコストダウンに仕事をしていくために、肉を使った製造をスタートした。



農産加工所での加工作業

【諸遊】毎年高くなる医療費の対策は。

【町長】国保の医療費は、平成21年度の増加率が12・5%。対策は、健康寿命を延ばすための人間ドック受診枠の拡充・脳ドックの新規実施など。

【諸遊】4年前に歩くプール建設を中止した考えに今も変わりはないか。

【町長】効果は認めるが、現在利用している施設に人数の余裕がある。

【諸遊】課長などで構成するチームの政策提案があまり実行されていないのでは。

【町長】指摘を受け止め、今後に生かす。

道州制で町はどう変わる？

町長

国の選挙前に答えるべきではない



近藤 大介 議員

【近藤】道州制の見通しと、実施された場合の町への影響をどう考えるか。

【町長】全国の町村で根強い反対もあり、実現の見通しには不透明なものがある。

道州制になった場合、市町村の機能を現在のままとするのか、国・県からの程度の事務権限を移すのかなど不明であり、影響は判断しかねる。

【近藤】自民党では、道州制基本法案がすでに作成されており、10



まちづくり会議の様子(所子地区)

年以内に道州制が実施される可能性は低い。その際の市町村規模は、人口10万人以上と想定されており、大山町は米子市との合併を検討せざるを得なくなる。

本町には168集落があるが、住民自治がどうなるか不安なことが多い。町の危機感がたまりたいのではないか。

【町長】近藤議員の想像の話であり、この時期(衆議院選挙前)に話すことではない。